

【口頭発表】

韓国における貧困移民女性の結婚の安定性に影響を及ぼす保護要因に関する研究 —レジリアンス観点をを用いて—

同志社大学 金松美 (008695)

キーワード：結婚移民女性，レジリアンス，結婚の安定性

1. 研究目的

韓国における結婚を通じた移民が大幅に増加している中、2012年現在の全体の韓国居住の結婚移民者の79.8% (226,084名)が女性である(韓国保健社会研究院 2012:118)。こうした状況の中、結婚移民女性を対象とする研究が多く報告され、結婚移民女性が母国の文化や取り巻かれた状況に対する家族や社会の無関心、差別、家庭内暴力の経験等、生活の不適応や経済的な困難に置かれたことが明らかになった。特に、経済的な困難を抱えている家庭の女性はよりストレスを受けやすい環境に置かれることが指摘されている(李 2009:76)。本研究の目的は、レジリアンスの観点をを用い、貧困結婚移民女性の結婚の安定性に影響を与える要因を探求し、各要因が貧困結婚移民女性の結婚の安定性に及ぼす相対的影響を明らかにし、実践への適用に向けて考察することである。

2. 研究の視点および方法

本研究はレジリアンスの観点から結婚移民女性の結婚の安定性に影響を及ぼす保護要因に着目する。レジリアンスは「逆境から立ち直って強くなり、資源をより豊富にすることができる能力」と定義されており(Walsh 1998:4)、ストレスがかかる状況をポジティブな挑戦として捉えることが出来る能力、ネガティブな影響を乗り越えられる力を言う。保護要因とは、逆境に置かれた対象者が状況を乗り越え、否定的な結果が出る可能性が高い危機的な状況に置かれているにもかかわらず、肯定的な結果を誘導する要因で、レジリアンス観点に着目するものである。2009年韓国保健社会研究院から発表された『全国多文化家族実態調査』を資料として用い、SPSS 18.0 Windowsプログラムにて分析を行う。現在の国民基礎生活保障法の受給者である女性4,498人を本研究の対象者として設定する。保護要因を個人的要因、家族的要因、社会的要因の三つに分け、個人的要因としては韓国語の能力、現在の生活に対する満足度、韓国での生活の適応に関する困難の有無、家族要因として母国の実家との連絡頻度、主観的に感じている配偶者との関係の満足度、子女の有無を、社会的要因としては公的サービスやインフォーマルなネットワークを設定する。

3. 倫理的配慮

本研究の資料は、韓国の保健福祉研究院から得られたデータであり、研究の目的以外には使用しない。分析のアウトプットとして出された結果には研究者の個人的な意見を挿

入せず、そのままを用いて分析を行う。研究結果を発表する際、出典を正確に提示する。

4. 研究結果

独立変数と結婚の安定性の相関関係分析の結果は次のようである。結婚の安定性に最も影響を及ぼした個人的要因は韓国語の能力で、家族的要因では子女の有無、母国の実家との連絡の頻度、配偶者との関係の満足度の順で影響を及ぼしていた。社会的要因では、インフォーマルなネットワークが結婚の安定性に影響を及ぼしていることが明らかになった。特に、韓国人のネットワークが他国人や母国人とのネットワークより影響力があることが示された。統制変数から個人的要因、家族的要因、社会的要因の順で回帰分析を行った結果として、子女の有無、配偶者との関係の満足度、年齢、母国の家族との連絡頻度、韓国語の能力が結婚の安定性に影響を及ぼしている要因であった。特に、家族的要因の中、子女の要因の影響力が最も高いことが示された。

5. 考察

貧困結婚移民女性の結婚の安定性に最も大きく影響を及ぼす要因は家族的要因であり、個人的要因、社会的要因の順で影響を及ぼしていた。家族的要因の中では、子女の要因が最も大きい影響を及ぼすことが明らかになった。このことから、子女の出産や育児のしやすい環境作りや育児に関するサービスに焦点を当てる必要があると考えられる。母国の実家との関係が韓国の生活に適応するための支援システムになると思われ、この支援システムが強いほど韓国の生活への適応や結婚の安定性を図ることができると推察される。個人的要因では韓国語の能力が影響を及ぼしている唯一の要因であり、韓国語の教育のプログラムの実施などを重点的に行うべきである。社会的要因では、公的サービスよりインフォーマルなネットワークが結婚の安定性に強い影響力が示された結果であるが、この関係は負の関係で、結婚の安定性が低い女性ほどインフォーマルなネットワークが良いとの意味である。このことからインフォーマルな資源が公的資源より相対的にアクセシビリティが低いのではないかということが推察された。即ち、結婚移民女性に対するインフォーマルな資源は公的資源に比べて不十分であり、現在の公的サービスは結婚の安定性が低い家庭、結婚して間もない家庭に照準を合わせているので、この結果になったものと考えられる。また、韓国人のネットワークが他国人や母国人とのネットワークより影響力があることは韓国人とのインフォーマル関係の強さを意味しているが、相対的に母国との関わりが希薄であるという意味にも考えられる。分析されたレジリアンスの保護要因を強化されるため、相対的影響力が高い要因、優先順位の高いニーズからのアプローチが必要であるという示唆を得られた。

韓国保健社会研究院 (2009) 『2009年全国多文化家族実態調査』 保健福祉家族部。 / 李ウンヒ (2009) 生活ストレスに対する結婚移民者女性の適応に関する研究-弾力モデルを適応して-『韓国家族福祉学』14(1), 73-94. / Walsh, F. (1998) 『Strengthening family resilience』 Guilford Press.